

山梨県社会教育委員の会議では、本県の社会教育の課題をもとに協議事項を設定し、2年間にわたり協議を重ねてきました。

<協議事項>

「つながり」でめざす持続可能な地域づくり
～連携・協働によるウェルビーイングの実現に向けて～

本会議では、すべての人々のウェルビーイングが保障される社会の実現には、「つながり」でめざす持続可能な地域づくりが重要であるとの考えの下に協議を重ね、本県の社会教育が目指すべき方向性や方策を提言としてまとめました。



「つながり」とウェルビーイング

多様なつながりの方法

対面でのつながりを大切にしつつ、ICTを社会教育におけるつながりの方法の一つとして、つながりの意味や形を考え直すことが求められています。

学校や地域、社会教育関係団体との連携・協働の実態

コミュニティ・スクールの設置は、その地域学校協働活動を通じて、社会教育としての学びの場を創出します。さらには、地域における両輪としての学校教育と社会教育のつながりを生み出す可能性を持っています。

ウェルビーイングを支える学びに向けて

誰もが豊かさを実感しながら暮らしていける、つまりはすべての人々のウェルビーイングが保障される地域社会の実現には、社会教育の一層の充実が不可欠です。

教育行政の役割	社会教育委員、社会教育主事の役割	社会教育関係団体の役割	学校教育の役割
生涯にわたって、いつでも、どこでも学習の機会を保障し、その成果を適切に評価する社会づくりが求められています。	社会教育委員や社会教育主事が指導や助言の役割を果たしているかの確認が必要です。さらに、学びをコーディネートする社会教育士の活躍も期待されます。	これまで果たしてきた役割と意義を整理し、領域や分野を超えたつながりを作り出す必要があります。	地域とのつながりが一層求められ、社会教育関係団体・施設と連携しながら地域をどのように支えていくのかを考える必要があります。
NPO・企業の役割	公民館・社会教育施設の役割	大学の役割	地域住民・自治会の役割
NPOや民間企業のもつ教育力を十分に生かし切れていないため、NPO等と地域をマッチングする仕組みが求められています。	全国的に減少傾向にあるため、改めてその役割を検討するとともに、新たな場所を作り出すこともまた学びにつながります。	大学は知を集積し、地域に開く役割があります。また、地域問題を解決する人材を育成することが必要です。	地域づくりの主役は私たち地域の住民です。また、多様な価値観や世代の声が響く自治会のあり方が求められています。

<提言1>

【繋ぐ】社会教育とネットワークづくり



社会教育がネットをワークの中核になることがポイントですね。

事例1 双葉西小学校の地域コーディネーター

提言書P10



地域の人から学ぶ子どもたち

双葉西小学校は、山梨県で初めて地域と一体となって特色ある学校づくりを目指すコミュニティスクールになりました。その活動の1つが学校と地域が連携・協働して地域の人たちが学習支援などにあたることです。双葉西小学校では専任の地域コーディネーターが大きな役割を果たし、学校と地域が機能的なネットワークをつくり大きな効果を上げています。

事例2 産後ママへのお弁当宅配事業 ～小さなネットワークから大きな展開へ～

提言書P11



お弁当を受け取り、会話を楽しむ産後ママ

認定NPO法人「スペースふう」では産後のお母さんたちにお弁当を届ける活動を行いました。

赤ちゃんのお世話などで忙しいお母さんにお弁当を食べて息抜きをしてほしいというだけでなく、お弁当を手渡す時に交わされる何気ない会話が、孤立しがちな産後のお母さんたちが地域とつながるきっかけにもなります。

この新たなネットワークづくりが認められ、富士川町（行政）の事業に発展することになりました。

<提言2>

【繋がる】 共生社会実現に向けたつながり



多様な価値観やライフスタイルを理解しあい、認めあう場づくりが大切です。

事例1 ガールスカウト山梨県連盟

提言書P14



ガールスカウト山梨県連盟は、世界連盟、日本連盟の方針のもと、「すべての少女と女性が自分らしく生きられる社会」を目指し行動する女性を育てることをビジョンとしています。地域での活動から国を越えた交流など共生社会実現に向けた広く多様な活動が特徴です。

山梨県内には12ヶ団があり、公民館などの社会教育施設等で月2回~4回程度活動しています。

地域の伝統行事と高校生のプロジェクト

事例2 にららん食堂

提言書P15



学生から専門職までの多様な人材による居場所づくり

にららん食堂は、NPO法人にららんが運営することも食堂です。食を通じて子どもや青年、高齢者等の多世代、子育て世帯や単独世帯等の多様な世帯、貧困や障がいなどの様々な背景のある人々が交流することを目指して活動しています。

韮崎市の市民交流センターを中心に、週1回の弁当配布とフードパントリー、学習支援、第三の居場所の開放を行っています。

<提言3>

【継げる】 地域社会での担い手の育成



今の生活に合わせて、社会教育の形を変えることが大切です。

事例1 防災ブレイメン

提言書P18



防災ブレイメンによる活動の様子

事例2 地域課題探究コンペティション「探コン」

提言書P19



高校生によるプレゼンテーションの様子

「自分の命は自分で守る」をコンセプトに、2020(令和2)年に設立された任意団体であり、メンバー6名の他に、県内の防災士と連携しながら活動を行っています。

主に地域社会の担い手づくりとして、「防災ジュニアリーダー」の育成や、子ども食堂の防災拠点化に向けたプロジェクト、防災に関するセミナーやイベントの開催支援などを行っています。

県内自治体の連携により、県内高校生が地域の未来を真剣に考える機会を創出することで圏域に対する愛情と責任意識の醸成という相乗効果を生むことを期待し、地域課題探究コンペティション「探コン」を実施しています。

このような活動を通して郷土愛を育て、地域に関心を向けることで地域人材の育成を目指しています。